

2023 年度 白梅学園大学・短期大学 授業評価アンケート結果報告

白梅学園大学・白梅学園短期大学 FD・SD 委員会

本学では教育の質向上を目指し、学生と教員の間での、学修成果に関する情報を共有する一環として授業評価アンケートを 2002 年度（大学は 2005 年度）から実施してまいりました。授業評価アンケートの結果や学生からのコメントを通じて、教員の指導内容の改善を目指しています。また、授業評価アンケートに学生が取り組むことを通じて、自身の学びを振り返り、修得した成果と課題を可視化することに繋げていきたいと考えております。

実施にご協力くださった先生方には、心より御礼申し上げます。

以下、本年度の授業評価アンケートの概要および分析結果についてご報告致します。

1. 授業評価の実施主体

白梅学園大学・白梅学園短期大学 FD・SD 委員会

2. 授業アンケート評価の実施方法

(1) 授業アンケートの実施と結果分析

調査の実施および集計は白梅学園大学・白梅学園短期大学教務課が行った。なお、結果分析については、FD・SD 委員会が実施した。

(2) 授業アンケートの実施方法

①実施回数および方法

年度内に 2 回（前期と後期）、ウェブ上（学生ポータルサイト）にて行った。回答は無記名受講学生の回答は昨年通り必須とした。ポータルサイトから繰り返し学生へ周知を行い、各授業内においてアナウンスした。

②対象授業科目

全科目について実施（通年科目、実習指導関係の授業、ゼミを含む）。

③実施時期

前期および後期の実施期間、回答率は以下の通りである。

	実施期間	回答率(大学)	回答率(短大)
前期	2023 年 7 月 18 日（火）～8 月 3 日（木）	53.0%	56.1%
後期	2024 年 1 月 9 日（火）～2 月 3 日（土）	40.4%	40.1%

④授業評価の結果公開

大学・短大全体の授業評価結果（全科目の総合集計結果）のみを本学HP上にて公開する。個別集計結果についてはウェブ公開しない。なお、教員各自が担当する科目の集計結果については、集計終了後に各教員に開示した。

3. 授業評価アンケートの質問項目

(1) 学生自身の自己評価

- 設問 1 (学習目的) 私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。
- 設問 2 (学習態度) 私は授業をしっかりと受講した。
- 設問 3 (学習態度) 課題や試験の準備に真剣に取り組んだ(でいる)。
- 設問 4 (内容理解) 私はこの授業の内容を十分に理解することができた。
- 設問 5 (総合評価) 私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。

(2) 授業担当者に対する評価

- 設問 6 (熱意態度) 教員は熱意をもって授業に臨んでいた。
- 設問 7 (授業運営) 教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた。
- 設問 8 (授業方法) 授業方法や使用した教材に熱意や創意工夫が感じられた。
- 設問 9 (基本項目) 教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。
- 設問 10 (学生対応) 教員は学生の質問や相談に丁寧に対応していた。
- 設問 11 (総合評価) この授業の教員は総合的に評価して良かった。

(3) 授業内容に対する評価

- 設問 12 (授業難易度) この授業は分かりやすかった。
- 設問 13 (授業進度) この授業の進め方のペースは適切であった。
- 設問 14 (教科書等) この授業の教科書・配付資料・プレゼン内容は適切であった。
- 設問 15 (授業内容) この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。
- 設問 16 (総合評価) この授業は総合的に評価して良い授業であった。

(4) 自由記述

- 設問 17 (授業内容・方法全般) 授業内容・方法や学生対応など、この授業で良かった点があれば挙げてください。
- 設問 18 (授業改善) 授業内容・授業方法・授業課題について改善点があれば挙げてください。また、実際に授業を受けてみて、困ったことがあれば挙げてください。
- 設問 19 (その他) この科目に限らず、本学の授業について意見や感想等があれば、挙げてください。

カテゴリー (1) ~ (3) の回答選択肢は、1 : そう思う (5 ポイント)、2 : ややそう思う (4 ポイント)、3 : どちらとも言えない (3 ポイント)、4 : あまりそう思わない (2 ポイント)、5 : 全くそう思わない (1 ポイント) の 5 段階評価とする。

4. 授業評価アンケートの結果

(1) 質問項目別にみる集計平均値

(大学)

設問 番号	質問項目	2023 前期	2023 後期	2022 前期	2022 後期
1	私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	4.47	4.49	4.43	4.46
2	私は授業をしっかりと受講した。	4.60	4.58	4.59	4.58
3	課題や試験の準備に真剣に取り組んだ(でいる)。	4.57	4.60	4.59	4.56
4	私はこの授業の内容を十分に理解することができた。	4.42	4.42	4.39	4.41
5	私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	4.56	4.54	4.52	4.52
6	教員は熱意をもって授業に臨んでいた。	4.68	4.68	4.64	4.65
7	教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた。	4.52	4.53	4.45	4.46
8	授業方法や使用した教材に熱意や創意工夫が感じられた。	4.58	4.58	4.51	4.52
9	教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。	4.60	4.62	4.56	4.58
10	教員は学生の質問や相談に丁寧に対応していた。	4.60	4.60	4.58	4.55
11	この授業の教員は総合的に評価して良かった。	4.61	4.61	4.57	4.58
12	この授業は分かりやすかった。	4.50	4.50	4.44	4.46
13	この授業の進め方のペースは適切であった。	4.54	4.55	4.50	4.51
14	この授業の教科書・配布資料・プレゼン内容は適切であった。	4.59	4.59	4.53	4.55
15	この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。	4.62	4.63	4.60	4.60
16	この授業は総合的に評価して良い授業であった。	4.62	4.63	4.58	4.58

(短大)

1	私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	4.65	4.63	4.51	4.43
2	私は授業をしっかりと受講した。	4.76	4.72	4.63	4.52
3	課題や試験の準備に真剣に取り組んだ(でいる)。	4.75	4.73	4.62	4.54
4	私はこの授業の内容を十分に理解することができた。	4.64	4.57	4.47	4.41
5	私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	4.74	4.67	4.57	4.47
6	教員は熱意をもって授業に臨んでいた。	4.81	4.79	4.64	4.55
7	教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた。	4.69	4.64	4.52	4.42
8	授業方法や使用した教材に熱意や創意工夫が感じられた。	4.75	4.68	4.55	4.47
9	教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。	4.73	4.71	4.55	4.48
10	教員は学生の質問や相談に丁寧に対応していた。	4.73	4.69	4.57	4.46
11	この授業の教員は総合的に評価して良かった。	4.75	4.72	4.56	4.49
12	この授業は分かりやすかった。	4.69	4.62	4.48	4.40

13	この授業の進め方のペースは適切であった。	4.69	4.68	4.53	4.46
14	この授業の教科書・配布資料・プレゼン内容は適切であった。	4.74	4.70	4.58	4.47
15	この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。	4.75	4.73	4.59	4.51
16	この授業は総合的に評価して良い授業であった。	4.75	4.73	4.58	4.51

比較のため 2022 年度の結果を併記した。学生自身の自己評価（設問 1～5）、授業担当者に対する評価（設問 6～11）、授業内容に対する評価（設問 12～16）の 3 つのカテゴリの各設問項目において、前後期とも昨年度のポイントより高くなっていることは注目できる点である。ここ数年においては、前年度の数値を上回る高い数値が得られてきたところではあるが、今年度も同様の結果となり、先生方のご尽力に心から感謝したい。

（2）自由記述の内容

自由記述については、前期後期ともにそのほとんどが授業に対して好意的なものであったが、その一方で、課題や試験の多さ、オムニバスにおける教員間の連携についての要望等々が寄せられた。これらについては、科目担当教員が真摯に受け止めた上でコメントを返し、改善を図っていききたい。

5. 授業改善に向けた成果と課題

（1）学生と教員の往還的な評価・改善

授業担当者に対する評価が、21 年度、22 年度、23 年度と毎年上がってきている。これは、授業評価アンケートの評価や学生が記入したコメントを基にして、各教員が授業内容を見直している事の結果であろう。

例えば、昨年、学生のコメントに試験の内容について、「聞いていない箇所が出された」といった意見や、採点についての問い合わせ等の声が挙げられていた。担当教員は、学生のコメントから試験内容について、口頭のみで行い板書していなかったこと、学生の理解状況から採点基準に迷いが生じたことなど、具体的場面の振り返りを行った。その振り返り過程で、教員側の思いと学生の思いに差があったことに気付き、改善を図ったことで本年度は試験内容に関する学生からのコメントが全くない結果となった。このような取り組みを教員一人ひとりが実践していった結果であると思われる。

また、今後の授業改善に向けては、ディプロマポリシーに基づく修得される能力や授業の達成目標、評価の方法、評価基準について、授業開講時に学生と共有することが課題となろう。また、授業評価アンケートを通じて、学生は自分の学びを記録し、振り返ることを継続していくこと、同時に教員は授業の内容の見直しを行うことが重要である。そのことにより、本学における教育の質向上の発展に繋がるとともに、学生自身が多面的かつ総合的に修得された力を可視化できるよう繋げていきたい。

(2) 学年進行によるポイント上昇

データを本稿では示していないが、学年が上がるにつれて、授業評価のポイントが上がっていた。その要因として、①授業評価アンケートを通じて学生自身が振り返ったことによること、②教員の学生に対する理解が深まったこと、③その結果として、学生と教員の間で相互の理解がより深まったことが考えられる。

今後は、各学科において、学年が上がることによるポイントの上昇の要因について、さらに分析し明らかにしていくことが重要である。例えば、各学期の終わりにループリック評価等を活用した学生面談を実施するといった方法が挙げられる。

(3) アンケート実施の周知

前期の回答率は、大学が 53.0%、短大は 56.1%、後期の回答率は、大学が 40.4%、短大は 40.1%であった。後期については、例年回答率が低くなる傾向にあるが、前期も含め授業内でのアナウンスの徹底と学生へのリマインドの時期について検討していく。学生からのアンケートが、以降の本学の授業改善に繋がるという趣旨も含めて、周知に努めていきたい。

それぞれの先生方には、学生を4年間、2年間育てる過程の重要な授業をよりよくするために、授業評価アンケートの更なる活用をお願いいたします。今年度の授業アンケートの結果報告やFD・SD委員会の取り組みについて、ご意見等ありましたら、気軽にFD・SD委員までお寄せいただけますと幸いです。